

小学校を選ぶ際の視点（学区外申請者）

□通学の利便性

保護者アンケート 第1位

□兄弟が通っていたから

保護者アンケート 第2位

□子どもの友人関係

保護者アンケート 第3位

【参考】保護者アンケート

第4位：児童数が多い又は少ない
第5位：校舎がきれいだから

学校選択申請時の選択希望の理由

第1位 学校の近さや通学のしやすさ
第2位 子どもの友人関係
第3位 学校の施設設備の整備状況

中学校を選ぶ際の視点（学区外申請者）

□友人関係の継続

子どもの選んだ視点 第1位
保護者アンケート 第1位

学区の課題 学区の構造上、進学先中学校が分散する

□通学の利便性

子どもの選んだ視点 第2位
保護者アンケート 第2位

□希望の部活動

子どもの選んだ視点 第3位
保護者アンケート 第4位

【参考】子どもの選んだ視点

第4位：兄弟が通っていたから
第5位：制服のデザイン

学校選択申請時の選択希望の理由

第1位 子どもの友人関係
第2位 学校の近さや通学のしやすさ
第3位 部活動

【成果】

内容	選択数	懇談会委員(座長、副座長除く)からの主な意見
成果はない	2	・子どもの半数は制度自体を知らないため、成果があるとは評価できない。
特色ある学校づくり	1	・人気のない学校は、特色のある学校づくりを進めるインセンティブになると思う。 ・競争性を公立の学校に持ち込む論理は理解できない。
学習意欲の向上	2	・学校の特徴を調べて目的意識をもって入学した子どもは充実した学校生活が送れていると思う。 ・どの学校に入学しても意欲が出るように学校側が創意工夫すべき事項であると思う。
通学の利便性	10	・学校までの距離が遠い子どもにとって救済措置になっていると考えられる。 ・安全なルートで通学できる学校を選ぶことができる。 ・小学校の学区変更した保護者の半数以上が通学の利便性を理由としているため、ニーズが高いと考える。
学校教育の質的水準の向上	1	・学校の位置や学校施設設備などによって評判が左右されてしまう可能性のある学校選択制では、教員のやる気には繋がらないと考える。 ・学校選択制ではなく、学校運営に対する保護者や地域住民の参画を通じて進めていくコミュニティスクールを通じて、学校教育の質を高めていくことが望ましい。
保護者の関心の向上	3	・学校生活について家庭で話し合うきっかけになると考えられる。 ・保護者アンケートでも、最も低い結果であるため、成果はないと考える。
その他	1	・特に中学校は「友人関係」を理由として利用しているケースが多いため、ニーズが高いと考える。 ・人間関係に悩んでいる子どもにとって救いになっていると感じる。

制度運用面における課題等（小学校）

□学校間の人数の格差

保護者アンケート 第1位
市民アンケート 第2位

□登下校中の安全確保への影響

保護者アンケート 第2位
市民アンケート 第3位

□教員数の確保や教室の整備への影響

保護者アンケート 第3位
市民アンケート 第1位

35人学級の背景

【参考】保護者アンケート、市民アンケート

第4位 制度の不公平感
第5位 地域と学校の関係の希薄化

○地域との学校の連携・協働
コミュニティスクールや地域学校協働活動の取組との兼ね合いに留意することも必要。

制度運用面における課題等(中学校)

□学校間の人数の格差

保護者アンケート 第1位
市民アンケート 第2位

□教員数の確保や教室の整備への影響

保護者アンケート 第2位
市民アンケート 第1位

□登下校中の安全確保への影響

保護者アンケート 第3位
市民アンケート 第3位

【参考】保護者アンケート、市民アンケート

第4位 制度の不公平感
第5位 地域と学校の関係の希薄化

○通学面について
小学校と較べ行動範囲も広がり、安全に登下校できるようにになっている。

【課題】

内容	選択数	懇談会委員(座長、副座長除く)からの主な意見
学校規模の格差の拡大	9	・学校側の工夫では解決できない地理的要因や風評により、児童生徒数が流出する可能性がある。 ・規模の格差は制度を廃止にしない限り解決されないと考える。 ・小規模校にとっては、学校選択制度により人数が増えることは望ましいことと考える。
教員や教室の確保が困難	12	・入学者数が直前まで分からないという事態は、学校にとって大きな負担であると考えられる。 ・学校側の負担の増加は、最終的に子どもたちに対し悪影響を及ぼしていると思う。 ・実施の時期を早めることで、ある程度解消できると考えられる。
登下校の安全性	8※	・距離が長くなることで安全性が損なわれるケースもあると思う。 ・通学路を事前に確認し、保護者が安全面に配慮する形であれば問題ないと思う。
地域との関係性の希薄化	3	・他の通学区域から幅広く通える制度は、地域で子どもを見守るというコミュニティスクールなどの考えと相反する制度設計になっている。 ・地域づくりは、ほかの方策によって推進すべき課題である。
制度の公平性	5	・受入枠がなくて選べなかった人は不公平に感じていると思う。 ・小規模校は受入れできるが、大規模校は選べないという理由ならば子どもも納得してくれると思う。
その他	2	・現場の教員の負担にならないように制度設計すべきと考える。

※うち小学校のみが6